

泉州の歴史再発見！

FREE 無料

Powered by
歴史人

Senshu
Jin

泉州人

vol.2

うまい！

古くて新しい野菜
「泉州黄たまねぎ」

織田信長
「紀州攻め」の道



豊かな自然と
文化が融合した
泉州の地



青緑色のパワーストーン
「和泉石」

雅な和歌会も開かれた
熊野御幸の
王子跡をたどる

風光明媚な
泉州の花の名所



美しい！

豊かな

自然と文化が

融合した

泉州の地

「泉州」とは、大和川以南の大阪湾岸沿いに連なる、堺市、高石市、泉大津市、和泉市、忠岡町、岸和田市、貝塚市※、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町という9市4町の総称だ。8世紀に定められた旧国名の和泉国の別称でもある。地域にフォーカスした「泉州人」第二弾として、今回は泉州南部の魅力をたっぷりとお届けします。大阪湾の海の幸に加え、温暖な土地で育つ泉州野菜など食材の宝庫。熊野古道の紀伊路が通り、織田信長の紀州攻めの舞台ともなったという、風光明媚な自然と歴史、文化が融合した土地である。



今回取り上げるのは
「泉州南部」の4自治体です

4 美味しい！古くて新しい野菜「泉州黄たまねぎ」

6 新鮮グルメと歴史の詰まった泉州の漁港へ出かけよう

9 美しい！青緑色のパワーストーン「和泉石」

10 上手い！織田信長「紀州攻め」の道

12 美しい！雅な和歌会も開かれた熊野御幸の王子跡をたどる

14 美しい！風光明媚な泉州の花の名所

18 泉州南部4自治体 国・大阪府指定文化財一覧

Vol.2

藤棚



泉州には
こんな名物があります

牡蠣



たまねぎ



泉州南部の歴史

約2万年前からこの地域に人が暮らし始める。古墳時代には、岬町の西陵古墳、宇土墓古墳など各地に古墳がつくられる。寺院の建立が始まり、白鳳期には泉南市の海会寺が建てられた。律令制国家になり、天平宝字元年（757）に和泉国が成立した。

平安時代末期に熊野詣のための熊野街道が通り、道中に王子社が設けられる。南北朝時代には武士の淡輪氏などが活躍。戦国時代に紀州の雑賀衆・根来衆の勢力が強くなるが、織田信長と、それに続く豊臣秀吉の紀州攻めによって征服された。近世に入り、江戸時代には大名領や幕府領などに分けられていた。

明治維新後、明治4年（1871）に泉南地域が堺県に編入され、明治14年（1881）に大阪府と合併。平成6年（1994）関西国際空港が開港。

美味！！

監修・文 本渡章

古くて新しい野菜 「泉州黄たまねぎ」

今では口にしない人はいないであろう、身近な食材「たまねぎ」は、明治期には日本人にとって未知の食材であった。先見の明をもって泉州の地でたまねぎ栽培に取り組んだのが、田尻町の3氏である。現在も品種改良が続く、古くて新しい「泉州黄たまねぎ」の今昔をひもってみよう。

監修・文 本渡章



泉州玉葱栽培の祖碑

大正2年（1913）、田尻町の吉見に建てられた「泉州玉葱栽培の祖碑」。パイオニアとなった3氏の名とともに栽培成功までの道のりが記されている。

泉州は西日本のたまねぎ発祥の地

泉州は西日本のたまねぎ発祥の地だ。南海本線吉見ノ里駅から徒歩5分、田尻町の春日神社のそばに建つ「泉州玉葱栽培の祖碑」がその由来を物語る。一説によると、明治18年（1885）4月、吉見の今井佐次平、大門久三

郎、道浦吉平の3氏は、農談会の帰りに土生郷村（現・岸和田市土生町）の坂口平三郎邸を訪れ、そこで植えられていたたまねぎを見る。そのたまねぎは、坂口氏の息子が横浜で試食のために購入し、残りを植えたものだった。農家の生活が困苦を極めていることから、3氏はたまねぎの試作を決意。横浜から種子を取り寄

「泉州黄たまねぎ（吉見早生）」とは？

- ・明治期に誕生
- ・扁平な形
- ・約300グラム
- ・柔らかく、みずみずしく、甘い
- ・つややかなものを選ぶと○



せた。

当時のたまねぎの多くは米国産。気候も土壌も異なる土地で試行錯誤の上、初めて収穫したたまねぎは、市場で全く売れずに問屋に買い取ってもらったという。だが明治の末頃には、泉州生まれの新しいたまねぎ

は、国内はもちろん海外にも輸出される人気商品に成長する。苦労は実を結んだのである。

現在も大阪府下随一の出荷量を誇る泉州地域

今では田尻町から泉南一帯に泉州

たまねぎの産地が広がり、現在も泉州地域は大阪府下随一の出荷量を誇る。もともとは栽培に技術を要し、家庭菜園では難しいとされてきたが、近年は栽培しやすい新品種も出回り、すそ野はさらに広がっている。

平成17年（2005）、泉州黄たま

ねぎは大阪府が制定する「なにわの伝統野菜」のひとつに認定された。最近も、「吉見早生」の復活「泉州黄たまねぎ祭」の開催などニュースが続く。みずみずしく、たくましく、生命力あふれる泉州黄たまねぎは、古くて新しい野菜なのである。

栽培から収穫・販売まで



泉州黄たまねぎの種を秋にまき、発芽したら苗として晩秋に植え替える。写真は定植後3～4カ月の様子。大きい畑に移すと、たまねぎも大きくなるのびと育つ。



定植後5～6カ月、ピンと立っていた矢が折れると収穫のタイミングになる。



泉州黄たまねぎ祭

吉見早生の復活を記念して、毎年5月中旬に田尻漁港の日曜朝市の一角で「泉州黄たまねぎ祭」を開催。たまねぎの即売のほか、試食なども行う。

祝！復活！

20年の眠りから目覚めた幻の「吉見早生」



農家の床下で大切に保管されていた「吉見早生」の種。



20年の眠りから目を覚まし、芽を伸ばした種。発芽試験成功だ。
©大阪府・環境農林水産食料研究所



発芽試験から約8カ月で「吉見早生」の初収穫にこぎつけた。

地域ブランドとして 帰ってきた“原点”の美味さ

泉州たまねぎ栽培の発祥地、田尻町にかつての主役が帰ってきた。泉州黄たまねぎの代名詞とされながら近年は姿を消し、幻のたまねぎと呼ばれた「吉見早生」。

平成18年（2006）、地元農家で20年間保存されていた種子が発見される。その後栽培に成功し、地域のブランドとして復活した。旨味と甘さ、みずみずしさで明治以後に一時代を築いた原点の美味さが、令和の田尻町に新たな活気をもたらしている。

深日漁港

多くの和歌に枕詞として読まれた「吹飯浦」が起源の歴史ある漁港。
午後3時に開く魚市場では、その日水揚げされた獲れたての魚を購入できる。



量りの上の魚
朝は海で泳いだ



南海多奈川線深日町駅から徒歩 10 分。
漁港に着いたら岬の海を見渡そう。淡路島、関西国際空港も一望できる。

漁港でも道の駅でも
その日獲れた魚が買える

深日は昔、「吹飯」といって、万葉集の歌にも詠まれている歴史ある土地だ。「時津風吹飯の浜に出ていつつ贈う命は妹がためこそ（作者不詳）」という、その歌の碑は漁港の北の浜辺に建っている。時は流れ、港のアイドルだったイルカに赤ちゃ



キラキラと光るタチウオ。この銀色の輝きが獲れたての証明！



見たことがないような大口向けの魚も並ぶ。これも漁港市場の醍醐味だ。



冬から春に美味しいメバルは、煮付け、塩焼き、刺身となんでもこい。



海の真ん中で釣っている気分になれる「海上釣り堀」。

地域産品が集まる人気スポットの道の駅「みさき夢灯台」。



漁師の持ち込みだから「魚の産直」。期待してしまうネーミングだ。

泉州の漁港へ出かけよう Vol.2

万葉の昔から歴史を紡ぐ現役の漁港でありながら、今では様々な楽しみが詰まった観光スポットとしても注目を集める、泉州の4漁港。大阪在住の作家、本渡章さんがリポートします。 監修：文／本渡章

田尻漁港

毎週日曜日の7時から正午まで開催される朝市は、魚だけでなく野菜や日用品なども豊富に出店されるのが特徴だ。冬には大きな小屋で牡蠣の食べ放題も楽しめる。



新鮮、朝市！
アナゴもずらり



南海本線吉見ノ里駅から徒歩 10 分。
たじりっち広場前の入口を入ると日曜朝市を開催する田尻漁港に着く。

朝市、漁業体験、牡蠣小屋。
楽しみが詰まった人気漁港

大正時代には大きな紡績工場があり、インドから船で届く原綿を荷揚げする港としても使われていたという田尻漁港。今は多くの観光客で賑わう漁港になっている。

朝市。新鮮な魚や野菜、日用品などが揃い、売り切れもあるため早起きして訪れるのがお勧めだ。到着すると、漁港をまたいで空に浮かぶ田尻スカイブリッジが見え、すがすがしい気持ちになる。

朝市では、ピチピチの鮮魚が見たことのない値段で売っていて、クーラーボックス持参でまとめ買いをするお客さんもいる。見ているだけで気持ちが高ぶってくるが、まずは腹ごしらえをしたい。店のおよそ半分を占めるのが実は飲食店。たこ飯、しらす釜揚げにも惹かれつつ、ぶ

りぷり、アツアツの食感のあなご天をチョイス。ふと、漁業体験の話で盛り上がる隣客の会話が耳に入ってくる。

冬に美味しい牡蠣やから、牡蠣小屋は冬季限定の大人気特別企画なんやて。



漁師が普段使う実際の漁船に乗って、刺網漁やカゴ漁を体験。

牡蠣小屋で焼き牡蠣、牡蠣めし、牡蠣フライ。海を眺めて舌鼓を打つ。

©田尻漁業協同組合





『和泉名所図会 4巻』
石工が作業している様子が描かれる。つくられているのは、石臼・灯籠・狛犬などである。©国立国会図書館



孝行臼
魚などもすり潰せば歯のない老人も食べることができたため、「孝行臼」と呼ばれた。



十三重石塔
京都府木津川市海住山寺所在、13 枚の屋根が重なる十三重石塔も泉州石工の作品のひとつ。

江戸時代になると、和泉石は石臼・茶臼といった庶民の生活道具として活用され、泉州における主要な地場産業として発展していく。寛政8年（1796）に刊行された『和泉名所図会』にも、和泉石が名産として挙

石塔や石垣、石臼など様々なものに加工
「和泉石」とは、和泉国すなわち大阪府南部で産出する砂岩で、泉州がその主な産地だった。青緑色をしていることから「和泉青石」とも呼ばれる。加工が容易であるため、優れた石材として重宝されていた。古くは古墳の石棺にも使われており、やがて神社の鳥居・狛犬・手水鉢などもつくられるようになる。仏教が広まってからは、寺院の礎石だけでなく、墓碑や石仏、あるいは五輪塔や宝篋印塔といった石塔などにも加工されるようになった。戦国時代には、城郭の石垣などにも使われている。

山中溪の石切場跡
和泉石の産地のひとつ阪南市の山中溪地区では、現在でも石を切り出した跡が残されている。



げられていて、「鳥取荘及び下荘箱作村、多く出る。其色、青白にして細密なり。石碑を造るに文字顯然たり。京師及び諸国に出る事多し。近年、孝行臼といふもの、此石を以て作る」と記されている。和泉石を加工する石工は、泉州だけでなく、関東から九州まで、全国各地に招聘された。その地で石材の加工に従事したほか、技術を残したことにより、「泉州石工」として現在でも高い評価を与えられている。

現代では、勝負運などをもたらすパワーストーンとしても人気の高い「和泉石」は、その名の通り、「和泉国」すなわち大阪府南部で多く産出され、2018年には、日本地質学会よって大阪府の石にも選定された。古くは古墳時代から加工して用いられ、江戸時代には地場産業として発展、泉州石工は全国各地で活躍してその技術を残した。

監修・文／小和田泰経

青緑色の「和泉石」パワーストーン

大阪湾は今、
牡蠣の名産地！



西鳥取漁港名物、ずらりと並ぶ牡蠣筏の風景。



もうひとつの新名物！「すだて漁」体験で網に入った魚をキャッチする。



冬限定の波有手牡蠣小屋は「FF 食堂」としてシーズンオフも営業している。

写真／阪南市観光協会

西鳥取漁港

潮の満ち引きを利用し、海の浅い場所に仕掛けた定置網に入ってきた魚を捕まえる、古来の漁法「すだて漁」体験が人気の西鳥取漁港。冬には名物の牡蠣も味わえる。



南海本線鳥取ノ荘駅から徒歩7分。海の匂いがする道を少し行き、視界がぐんと広がると漁港に到着する。

日本書紀由来の名を冠した由緒ある港
「大阪府の鳥取？ なんてやねん！」
お決まりのツツコミを頭に浮かべてしまふのが西鳥取漁港だ。阪南市の地名、鳥取の由来は『日本書紀』に記された口のきけな

い皇太子が、ある鳥を捕らえたのを機に喋れるようになったという逸話とのこと。古代から歴史を積み重ね、今では流し網でのサワラ漁、板引網でのマナガツオ漁などで知られる。名物はなんといっても冬場の牡蠣。突堤で囲まれたエリアに漁船が浮かび、海には張り出した養殖の筏。ここは大阪では珍しい牡蠣の養殖成功の地。季節になると漁業組合直営の牡蠣小屋が出て、旨味たっぷりの牡蠣フライ、蒸し牡蠣が楽しめる。南海本線の鳥取ノ荘駅から歩いて約7分。駅近の漁港というのが、ありがたい。毎年冬になると、遠方から電車を乗り継ぎ、やって来る人も多いという。

岡田浦漁港

巨大水槽に獲れた魚を放つ地引網体験が名物の岡田浦漁港。漁港から少し歩いたところには、白いマーブルビーチを目の前にした「海のマルシェ」も開催されている。



南海本線岡田浦駅から徒歩7分。岡田浦漁港から続く海岸線にマルシェやビーチもある。



熱気あふれる競りの見学は、目でも耳でも楽しめる。

漁港の活気を見たら海のマルシェへ繰り出そう
岡田浦漁港の名物、地引網体験で沖合に仕掛けた網を引くと、漁獲の重みを実感できる。魚を網から巨大水槽に放つのも、泳ぐ魚を間近に見て触れるのも、わくわくの体験だ。新鮮魚介の

バーベキューが始まる頃には盛り上がりも最高潮になる。競り市の見学も面白い。大勢の人がいて、行ったり来たりのリヤカーはどれも魚でいっぱい。見ているだけで元気がもらえる。タコ、シラス、ガッチョなどと、泉州の海の幸を数え上げる。食欲が湧いてきたら、漁港から少し歩いたところにある「ロングパーク 海のマルシェ」に行こう。毎週末、テントやキッチンカーの出店があり、海の幸を味わえる。名物は特大、サクサクの揚げたての「泉南ロングあなご天ぷら丼」。目の前のマーブルビーチの白い砂がまぶしく、リゾート気分を満喫できる。

地引網で捕らえた魚をみんなで眺められる巨大水槽。



引いて知るずっしりとした重みが、地引網の醍醐味とも言える。

写真／JF 岡田浦漁業協同組合

上手い！！

織田信長 「紀州攻め」の道

天正5年（1577）2月9日、大坂の本願寺と戦っていた織田信長は、本願寺を支援する雑賀衆と根来衆を滅ぼすため、安土城を出陣して紀伊に向かった。信達（泉南市）の本陣から二手に分かれた、そのルートを現代地図で追ってみよう。

監修・文小和田泰経



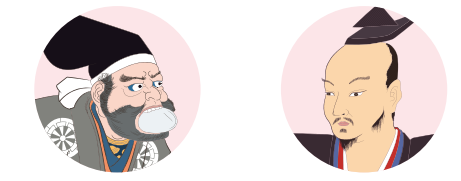
織田信長

尾張守護代織田氏の家臣・織田信秀の子。室町幕府を再興して政治的な実権を握ると、將軍足利義昭を追放する。天下統一を目前にしたが、家臣の明智光秀に討たれた。



佐久間信盛
織田信長の重臣として本願寺との戦いに活躍。しかし、本願寺の降伏後、戦いが長期に及んだことを問責されて高野山に追放された。

羽柴秀吉
武家奉公人としては最下層の小者から出仕。足軽大将から重臣に昇りつめた。本能寺の変後、信長の後継者として天下人になる。



荒木村重
もとは摂津池田氏の家臣。織田信長の覚えめでたく摂津一国の支配を任されたが、毛利輝元に通じて謀反をおこし没落した。

別所長治
播磨三木城主。播磨に進出した織田信長に従属。しかし、このち毛利輝元に通じて謀反をおこしたため三木城を攻められて自害。



堀 秀政
もとは美濃斎藤氏の家臣で、のち織田信長の側近となる。本能寺の変後は羽柴秀吉に従う。小田原攻めにも参陣したが、陣中で病死。

不破光治
もとは美濃斎藤氏の家臣で越前一向一揆の平定に活躍。佐々成政・前田利家とともに越前2郡を治めて府中三人衆と称された。



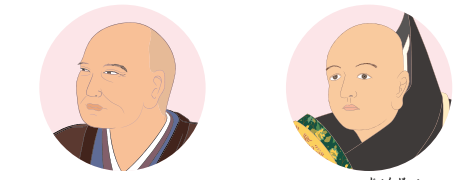
織田信忠
織田信長の長男。弟の信雄・信孝とともに紀州攻めに加わる。信長から家督を譲られていたが、本能寺の変で自害に追い込まれた。

滝川一益
近江の出身とされ、伊勢長島一向一揆の平定に活躍して長島城主となる。信長の死後、柴田勝家とともに羽柴秀吉と対立し、没落。



明智光秀
もとは美濃斎藤氏の家臣。織田信長の上洛に従い、近江坂本城主に。丹波平定に活躍したが、本能寺の変で信長を自害に追い込んだ。

丹羽長秀
織田信長に仕えた股肱の臣。近江の平定に活躍して佐和山城主に。本能寺の変後は羽柴秀吉に与して越前・若狭と加賀半国を領した。



細川藤孝
管領細川氏の庶流。將軍足利義輝の幕臣で、織田信長に封じられた足利義昭に従い、のち信長の家臣となった。子孫は肥後熊本藩主。

筒井順慶
大和の大名。大和の覇権をめぐって松永久秀と争う。久秀が信長に謀反をおこしたことで信長から大和支配を認められて郡山城主に。

参戦した主な武将



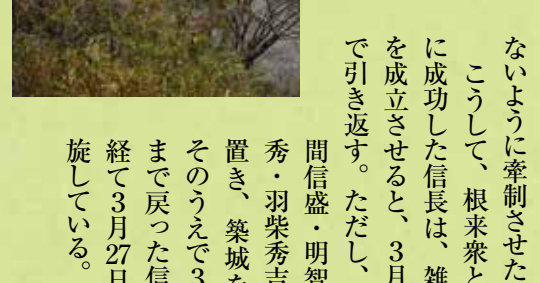
① 信達
熊野街道の信達宿が置かれていたところ。信長はここで浜手軍と山手軍の二手に分けた。



② 波太神社
淡輪から戻った信長が最終的に本陣を置いたところ。浜手と山手の双方を統括できた。



③ 淡輪
浜手の経路に位置した要衝で、淡輪水軍の本拠地だった。信長も淡輪まで進軍している。



④ 孝子峠
淡輪から雑賀に向かう峠。浜手軍はここを通り、まず雑賀衆の中野城を攻撃した。



⑤ 雄ノ山峠
信達から根来に向かう峠。山手軍が通ったとされるが、風吹峠を通ったとする説もある。

来衆のうちの杉ノ坊は信長に内通していた。2月13日に京都を發った信長の軍勢は、河内若江から泉州路を南下し、2月16日には香庄（岸和田市神於町）に着く。そして、2月18日には佐野（泉佐野市）、2月22日には信達（泉南市）に至る。信長は、この信達で軍勢を浜手と山手の二手に分けた。

海沿いを進む浜手は淡輪でさらに三手に
浜手は、信達から海沿いを進むルートである。浜手を進んだのは、滝川一益・明智光秀・丹羽長秀・細川藤孝・筒井順慶らで、淡輪（岬町）から先は難所であるため、さらに三手に分かれて孝子峠から紀伊に侵入した。山手は、信達から南下する

本隊は、浜手のほうであったよう
で、信長の嫡男信忠や次男信雄、三男信孝らも浜手に加わっていた。また、2月28日には、信長自身も淡輪まで進み、翌2月29日には淡輪からさらに先に進んで野営している。

3月1日、滝川一益・明智光秀に雑賀衆への総攻撃を命じた信長は、翌3月2日、若宮八幡宮（波太神社）まで本陣を戻す。そして、山手の堀秀政・不破光治らに命じ、根来口を守らせた。根来衆が雑賀衆を支援しないように牽制させたのである。

こうして、根来衆と雑賀衆の分断に成功した信長は、雑賀衆との和睦を成立させると、3月21日、香庄まで引き返す。ただし、佐野には佐久間信盛・明智光秀・丹羽長秀・羽柴秀吉・荒木村重を置き、築城を命じていた。そのうえで3月23日に若江まで戻った信長は、京都を経て3月27日、安土城に凱旋している。

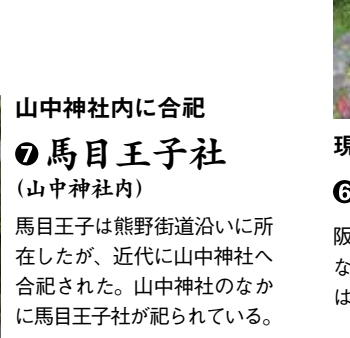


現在は児童遊園に
⑥ 地蔵堂王子跡
阪南市山中溪にある児童遊園の一角が跡地。熊野街道の旧道に面し、すぐ近くには難所として知られる琵琶ヶ岸懸があった。



九十九王子のうち、泉州南部には厩戸・一之瀬・長岡・地蔵堂・馬目という5つの王子が存在している。なかでも、厩戸王子のある信達には上皇が宿泊するための御所が設けられており、夜には、この御所において貴族による和歌会も開催された。

厩戸王子からは、雄ノ山峠を越えて紀伊に入り、熊野三山を参詣すると、同じ道を引き返す。復路では芸能や和歌会なども行われなため、旅程としては往路よりも早い。往路と復路を合わせると、だいたい20日から30日の旅程であった。



熊野街道沿いには、大坂から熊野までの間に、九十九王子と呼ばれる熊野三山の末社が祀られている。これらの王子では奉幣^{ほうへい}が行われ、神楽や相撲などの芸能が奉納されることもあった。

海会寺跡近くに立つ石碑
① 厩戸王子跡
泉南市信達大苗代に所在。近代まで厩戸王子神社として存続していたが岡神社に合祀され、現在は跡地に石碑のみが残る。

地蔵菩薩と馬頭観音を祀る
② 一之瀬王子跡
信達王子・信達一之瀬王子などともよばれ、泉南市信達牧野に所在したとされる。現地には地藏菩薩や馬頭観音が祀られている。

泉南市の比定地「岡中鎮守社」
③ 長岡王子跡
(候補地・泉南市)
泉南市信達岡中に所在する長岡王子比定地のひとつ。鎮守社の跡地にあたり、樹齢800年を超えているといわれる楠が聳えている。

遥拝鳥居そばの石碑が目印
④ 長岡王子跡 (候補地・阪南市)
阪南市和泉鳥取に所在する長岡王子比定地のひとつ。熊野街道に面し、波太神社を遥拝する鳥居の下にあったとされている。



現地での呼称は「足神さん」
⑥ 馬目王子跡
阪南市山中溪に所在し、「ウハ目王子」などと呼ばれることもある。地元では、「足神さん」として崇敬されてきた。

淀川を下って摂津の大坂に上陸した。ここから紀伊路を南下して和泉から紀伊へ向かうのが熊野御幸の公式ルートとされている。そのため、のちには、このルートが熊野街道と呼ばれるようになった。

往路では奉幣や芸能の奉納を行った



藤原定家
朝廷に仕えた中級貴族。当代一の歌人と呼ばれ、和歌を好んだ後鳥羽上皇に重用された。建仁元年（1201）の熊野御幸に随行した記録が『熊野御幸記』として残されている。
©ColBase (https://colbase.nich.go.jp)

【エピソード】
8月7日、熊野街道を南下した後鳥羽上皇一行は、厩戸王子のある信達で宿泊した。上皇のためにはあらかじめ茅葺きの御所が用意されていて、厩戸御所と呼ばれていたらしい。一行のなかでは位の低い藤原定家は、上皇とは別な場所に宿泊した。夜になると上皇が歌会を開いたため、定家も厩戸御所に呼ばれて二首を詠む。和歌のお題は、「暁の初雪」と「山路の月」であった。

平安時代末期、紀伊の熊野三山、すなわち熊野本宮大社（本宮）・熊野速玉大社（新宮）・熊野那智大社への参詣がブームとなり、熊野詣でと称されるようになる。なかでも、白河・鳥羽・後白河・後鳥羽という4人の上皇は自ら熊野詣でをしており、その回数は合わせて100回を数えている。ちなみに、上皇の外出のことを御幸といい、上皇による熊野詣でを熊野御幸といった。上皇による熊野御幸には、近臣である貴族のほか、道中の警固をする北面の武士らも随行しており、総人数は800人にも及んだという。

京を出立した一行は、まず京都の南に位置する鳥羽か山崎で船に乗り、



後鳥羽上皇
後白河上皇の孫。上皇として合計28回にわたり熊野御幸を行った。しかし、承久の乱で鎌倉幕府軍に敗れ、隠岐へと配流。以後、上皇による熊野御幸が衰退することになった。
©ColBase (https://colbase.nich.go.jp)

厩戸王子で詠まれた和歌
袖の霜のかげうちほらふみ山ぢも
まだすゑ遠き夕月夜かな
藤原定家
（現代語訳）袖についた雪を払いつつこ（厩戸王子）まで来たが、さらなる山路を照らす夕月夜なのだ
総勢800名による、きらびやかな上皇の熊野詣で「熊野御幸」。そのルート、熊野街道沿いには九十九王子と呼ばれる末社があり、泉州南部地域には5つの王子が存在していた。藤原定家が残した記録によると、宿泊施設を備えた厩戸王子では、後鳥羽上皇による和歌会も開かれたという。

4人の上皇の熊野御幸はのべ100回にも及ぶ
平安時代末期、紀伊の熊野三山、すなわち熊野本宮大社（本宮）・熊野速玉大社（新宮）・熊野那智大社への参詣がブームとなり、熊野詣でと称されるようになる。なかでも、白河・鳥羽・後白河・後鳥羽という4人の上皇は自ら熊野詣でをしており、その回数は合わせて100回を数えている。ちなみに、上皇の外出のことを御幸といい、上皇による熊野詣でを熊野御幸といった。上皇による熊野御幸には、近臣である貴族のほか、道中の警固をする北面の武士らも随行しており、総人数は800人にも及んだという。

京を出立した一行は、まず京都の南に位置する鳥羽か山崎で船に乗り、

美しい！
熊野御幸の王子跡をたどる
雅な和歌会も開かれた



美しい！！

風光明媚な 泉州の花の名所

花の名所が連なる「花回廊」としても知られている泉南一帯。梅、桜、藤、ツツジ、サツキ、アジサイと、季節ごとに訪ねたい花の名所7選を、美しい写真とともにお届けします。

監修：文 本 渡 章

山中溪の桜 1000本の 桜並木が圧巻！

DATA
見頃／3月下旬～4月中旬
大阪府泉南市山中溪
電車：JR阪和線
「山中溪」駅すぐ
車：阪和自動車道
泉南ICより約15分
駐車場／
わんぱく王国併用140台
(普通車500円
大型車1500円)



桜の妖しく幻想的な美しさを
引き出す夜のライトアップ。



日本遺産に認定された
葛城修験の史跡のひとつ、
葛城二十八宿経塚。



境内を覆うしだれ桜で名
高い、山中溪の地福寺。

線路沿いと川岸を
埋め尽くす桜、桜、桜

江戸時代は参勤交代の大名行列が通った紀州街道の宿場町で、昭和の中頃は温泉宿だった山中溪。街道筋の歴史に新たな彩りをと、昭和40年代にはじまった桜の植栽が実を結び、今では1000本の山桜、ソメイヨシノが咲く花見名所になって、訪れる人々を楽しませる。

JR阪和線の山中溪駅に向かう電車の窓から、花見はもう始まっている。線路沿いの見事な桜並木を堪能し、駅に降りたら、今度は川の兩岸を染める桜の道を歩いて行こう。夜にはライトアップもされ、川沿いにはボンボリが灯る。

4月初めには駅前の市営公園「わんぱく王国」で「山中溪桜祭り」も開かれ、物産展や太鼓、踊りのイベントが催される。やはり桜の名所の地福寺も近くにあり、古い街並みの散策を兼ねて足を延ばしてみたい。

金熊寺梅林 300年の歴史をもつ「梅林」

DATA
見頃／2月下旬～3月中旬
泉南市信達金熊寺地区
JR阪和線「和泉砂川」駅、
あるいは南海本線「樽井」駅より
泉南市コミュニティバス
「さわやかバス」(山方面回り)で
「東小学校前」下車、
徒歩2分
駐車場／金熊寺梅林組合駐車場
20台(見頃時期有料)



古来より絶景と讃えられた金熊寺梅溪。
どこを切り取っても絵になる風景だ。

お告げによって始まった
梅栽培が一大梅林に発展

海や山の眺望、古い史跡に恵まれ、そこに花の名所が連なる泉南市。総称として「花回廊」とも呼ぶ、歴史と四季の風光がひとつになった街の魅力を代表するのが金熊寺だ。

修験道の祖とされる役行者が開いた寺で、江戸時代初めにお告げによって梅の栽培がはじまる。やがて茶店が並び出し、梅の花見で有名になった。「金熊寺梅溪」とは、背景の山々とともに梅を愛でること。今も金熊寺の近くには、地元の住民が育て管理する梅林が広がり、近くの信達神社とともに「大阪みどりの百選」に選定されている。



蕾もよし、開いて
なおよし。青空に
梅の花が浮かぶ。



金熊寺の隣に
立つ信達神社
の社殿。近く
には梅の丘が
広がる。

信達宿・ 梶本家の 野田藤 1本の木に 4万の花房を付ける

DATA
見頃／4月中旬～下旬
大阪府泉南市信達牧野1338
JR阪和線「和泉砂川」駅より
徒歩8分
公開／10～17時
(公開期間中)
駐車場／長慶寺駐車場(無料)
※維持費として、協力金をお願い



続々と湧き上がっては垂
れ下がる藤の花房。1本の
藤が見事な藤棚に。

平成の花咲か爺さんが
つくり上げた見事な藤棚

現在では熊野古道とも呼ばれる、熊野街道の宿場のひとつとして賑わった信達宿。その信達の梶本家に、大阪市・野田が原産の固有品種「野田藤」の太木がある。1本の木で、奥行27メートルの藤棚に4万もの花房が付くという見事なものだ。大事に育てあげた故・梶本氏は今、平成の花咲か爺さんと呼ばれている。

開花状況に合わせて1週間程度公開され、咲き誇る藤棚をひと目見ようと多くの人が訪れる。4月下旬には「ふじまつり」も開かれ、コンサートなども行われる。



特別公開される、
徳川御三家の紀州
公宿泊の信達宿本
陣跡「角谷家」。



藤の育ての親、故・
梶本さんの邸宅内に
広がる藤棚は、見頃
時期に鑑賞台が設置
され、上から眺めら
れる。



高く伸び、低く群がり、アーチを描く。
春の見頃に咲き揃う3000株のバラ。

デビッド・オースチン・イングリッシュローズガーデン 200種3000株の バラが咲き揃う

広大な敷地に広がる
英国式の本格ガーデン

泉南市農業公園の花咲きファーム「花畑エリア」にあるのが、イングリッシュローズの生みの親、デビッド・オースチン・ローズズ社が英国以外で展開する唯一の直営ガーデン。3000株のバラの回廊は、色とりどりのバラの花との出会いの場だ。優雅な曲線を描く散策路を歩き、アーチをくぐればバラの香りが漂い、贅沢な時間に浸れる。

多数の花が咲き揃う春の見頃にローズフェスティバルが、色と香りの濃厚な秋の見頃にもイベントが開催される。



人の手とバラの合作で、形も色も多種多様なバラが生まれる。

DATA
見頃／春と秋
大阪府泉南市幡代2001
営業日時は季節によって変動あり。要HP確認
<https://www.davidaustinroses.co.jp>
休業日／年末年始



見どころのひとつ、アジサイの谷。木々の下から顔を出す花が可愛い。



長い石段の脇にも、ピンクや紫など、色とりどりのアジサイの花が咲く。



DATA
見頃／6月
泉南市信達市場815
JR阪和線「和泉砂川」駅より
徒歩12分
駐車場／有(100台)

本堂前の石畳の脇に、青と白の清楚な花が彩りを添える。



アジサイのスタンブが入った御朱印。墨文字は金泉山大悲院長慶寺。

長慶寺のアジサイ 全山がアジサイで彩られる

御朱印の片隅にも咲くアジサイ尽くしの寺

市内を一望できる小高い丘の上に建つ長慶寺。アジサイ寺とも呼ばれるのは、境内に6000株のアジサイが花開く6月の風情による。仁王門に続く100段の石段沿いに連なる、アジサイがとりわけ見事だ。石段には厄除けの御利益もあるという。この寺は聖武天皇の勅願で行基が開いたと伝わる、海会寺の一院として創建され、史跡になった海会寺跡広場から徒歩17分ほどに位置する。本堂そばのアジサイの小道、アジサイの谷に誘われ、そぞろ歩きも楽しんで、古寺の情緒を味わいたい。



堂塔を後ろに控え、斜面がサツキで色づく。モダン感覚あふれる法林の庭。

DATA
見頃／ツツジ:4月下旬～5月中旬
サツキ:5月中旬～下旬
泉南市信達岡中395
JR阪和線「和泉砂川」駅より
徒歩約20分
駐車場／有(40台)

林昌寺のツツジ・サツキ モダンな寺庭に 鮮やかな花々

斜面を花が覆いつくす
重森三玲作の庭

林昌寺の山号は躑躅山という。平安時代に堀川天皇が山を彩るツツジの見事さを讃えて命名した。今は山の斜面が境内の庭園「法林の庭」になり、春にはツツジ、少し遅れてサツキが咲き乱れる。

庭の作者は重森三玲。数々の名庭園を手がけた日本を代表する作庭家だ。斜面の起伏を生かした変化に富む庭の眺めに、ツツジ、サツキの艶やかな赤色が新鮮だ。庭園のかたわらには仏足石があり、裏山は弥生時代の銅鐸の発掘地。史跡としても名高い場所だ。



石段に沿って咲く、白とピンクのツツジ。緑に鮮やかに映える。



秋の紅葉も美しい。寺内山中の散策路では思わぬところで仏像がお出迎え。



四国八十八ヶ所巡りになぞらえた散策路には札所があり、仏像が建つ。



DATA
見頃／4月下旬～5月
泉南郡岬町
淡輪838-20
南海本線「淡輪」駅より
徒歩10分

初夏の光に浮かぶ、輝くような鮮やかなピンク。満開のツツジが四季の喜びを歌う。

あたご山（淡輪遊園）のツツジ 5万本のツツジと港を一望

ツツジの近景と
海の遠景の見事な対比

ツツジの名所のあたご山。春は「つじ祭り」で盛り上がる。見上げれば、山肌一面を覆う5万本の赤い花。高みに登れば、花畑越しに見下ろすヨットハーバーに白い帆が浮かぶ。晴れた日は大阪湾を挟んで、遠く明石海峡大橋まで見渡せる。海と山の間に横たわる赤い橋が風景のアクセントだ。歩くと絵になる眺めが次々とあらわれる。

あたご山の公園は淡輪遊園とも呼ばれ、明治の頃から有名な観光地で、遊園地もあった。大正時代には東洋一のツツジの名所と謳われていた。



桜の頃も美しい、あたご山。高見から見下ろせば、一面のピンクの向こうに海が広がる。



ツツジ越しに港を見下ろす。ツツジの谷をまたぐ赤い橋がアクセントになっている。

泉州南部4自治体 国・大阪府指定文化財

一覧

泉州の南部に位置する4自治体、田尻町、泉南市、阪南市、岬町の
国および大阪府による、指定・登録等の文化財を一覧にご紹介します。 ※一般公開していない文化財も含む。訪れる際には事前に確認を。

【田尻町】

区分	指定等	分野	名称	所有者(管理者)
府	指定	建造物	有 嘉祥神社本殿	嘉祥神社
府	指定	建造物	有 田尻歴史館 (旧谷口家吉見別邸)	田尻町



田尻歴史館

【泉南市】

区分	指定等	分野	名称	所有者(管理者)
国	指定	考古	重 大阪府海会寺跡出土品	泉南市
国	指定	史跡	記 海会寺跡	一岡神社
国	認定	考古	美 袈裟褌文銅鐸 (林昌寺附近出土)	林昌寺
国	登録	建造物	有 山田家住宅	個人
国	登録	建造物	有 男神社拝殿 及び幣殿、社務所、透塀	男神社
府	指定	建造物	有 男神社本殿	男神社
府	指定	建造物	有 光平寺石造五輪塔	光平寺
府	指定	史跡	記 厩戸王子跡	一岡神社
府	指定	天然記念物	記 岡中鎮守社のくす	岡中区
府	指定	天然記念物	記 岡中鎮守社のマキ	岡中区
府	指定	天然記念物	記 信達神社のナギ	信達神社
府	指定	天然記念物	記 信達神社のおガタマノキ	信達神社



男神社旧拝殿
及び幣殿(社務所)



海会寺跡／上空よりみた金堂と塔



海会寺跡／史跡海会寺跡広場と泉南市埋蔵文化財センター



海会寺跡／
西回廊下の整地層(東より)

【大阪府海会寺跡出土品】



中世軒瓦

【阪南市】

区分	指定等	分野	名称	所有者(管理者)
国	指定	建造物	重 波太神社本殿、 末社三神社本殿	波太神社
国	指定	工芸品	重 珠洲草樹文壺	個人
国	登録	建造物	有 成家住宅 主屋他	個人
国	登録	建造物	有 南家住宅 主屋他	個人
国	登録	名勝	記 南氏庭園	個人
府	指定	建造物	有 加茂神社本殿 附慶長15年銘石燈籠1基	加茂神社
府	指定	絵画	有 波太神社三十六歌仙扁額	波太神社
府	指定	彫刻	有 宗福寺 木造 地藏菩薩坐像	宗福寺
府	指定	史跡	記 玉田山一号墳	鳥取神社
府	指定	天然記念物	記 自然居士のいちょう	東鳥取地区
府	選択	無形民俗文化財	民 自然田 瑞宝寺の鉦講	瑞宝寺鉦講仲
府	選択	無形民俗文化財	民 黒田 黒田寺の鉦講	黒田寺鉦講
府	選択	無形民俗文化財	民 石田 祐道寺の鉦講	祐道寺鉦講
府	選択	無形民俗文化財	民 箱作 宗福寺の双盤念仏	宗福寺鉦講
府	選択	無形民俗文化財	民 鳥取 西光寺の双盤念仏	西光寺双盤講



波太神社拝殿



南家住宅／土塀



南氏庭園

企画制作／歴史人編集部 写真提供・協力／田尻町 泉南市 阪南市 岬町 大阪府 協賛／KIX 泉州ツーリズムビューロー 編集／興梠麦子
イラスト／ササキサキコ(P2) さとうただし(P10) 地図／アトリエ・プラン デザイン・DTP／FROG KING STUDIO 営業／森 好文 佐藤真一郎 川島早智
校正／東京出版サービスセンター 編集人／後藤隆之 発行人／園部 充 発行所／株式会社 ABC アーク
©ABC ARC 本誌掲載記事・写真・イラスト等の無断複写(コピー)・複製・転載を禁止します。

【岬町】

区分	指定等	分野	名称	所有者(管理者)
国	指定	建造物	重 船守神社本殿	船守神社
国	指定	彫刻	重 木造 釈迦如来坐像	興善寺
国	指定	彫刻	重 木造 大日如来坐像	興善寺
国	指定	彫刻	重 木造 薬師如来坐像	興善寺
国	指定	史跡	記 西陵古墳 第一、第二古墳	岬町
府	指定	考古	有 深日沖出土陶磁器	個人
府	指定	史跡	記 白峠山古墳	個人
府	指定	史跡	記 鴻ノ巣山第1号墳	個人
府	指定	史跡	記 淡輪別所遺跡	個人
府	指定	天然記念物	記 岬住吉神社のうばめがし社叢	住吉神社
府	指定	天然記念物	記 拂殿座神社のむく	拂殿座神社 講中
府	指定	天然記念物	記 船守神社のくす	船守神社
府	指定	天然記念物	記 金乗寺のいちょう	金乗寺

【岬町】

区分	指定等	名称	所有者(管理者)
宮内庁	陵墓参考地	宇度墓古墳	宮内庁



船守神社本殿

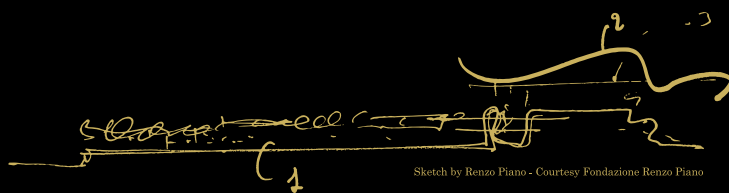


西陵古墳

KIX

A NEW JOURNEY

新しい旅の体験を、ここから



関西国際空港
Terminal 1 2025.3
GRAND OPENING